

中間評価（表紙）

明和町 歴史的風致維持向上計画（令和3年3月29日認定）
中間評価（令和3年度～令和7年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 史跡齋宮跡の保存と地域住民との調和に関する方針	3
II 史跡齋宮跡を核に歴史的資源を活かした観光に関する方針	4
III 歴史的建造物や景観に関する方針	5
IV 地域の伝統文化や行事等の継承に関する方針	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 郷土教育の充実と地域資源の発見による地域のホスピタリティ向上	7
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 歴史的建造物等の活用整備事業	8
B 史跡公園整備事業	9
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 齋宮の顕彰と保存に関する歴史的風致	10
2 民俗行事に見る歴史的風致	11
■ 庁内体制シート（様式6）	12
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	13
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	14

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	齋宮の顕彰と保存に関する歴史的風致	I、II、III、IV	
2	民俗行事に見る歴史的風致	IV	
3			
4			
5			
6			
7			
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	史跡齋宮跡の保存と地域住民との調和に関する方針		
II	史跡齋宮跡を核に歴史的資源を活かした観光に関する方針		
III	歴史的建造物や景観に関する方針		
IV	地域の伝統文化や行事等の継承に関する方針		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	郷土教育の充実と地域資源の発見による地域のホスピタリティ向上		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	歴史的建造物等の活用整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	史跡公園整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
方針	I 史跡齋宮跡の保存と地域住民との調和に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

わが国唯一の「齋宮」の跡地を、さらに後世に伝えるため、文化財保護と地域住民の日常生活の良好な環境整備の確保をどのように調和させるのか、また建物跡の遺構が地下に埋まっていることから「齋宮」の実態がとらえ難く、愛着を持ちづらいことなどが課題である。

発掘調査を継続して実施し、歴史的資源を活用して、周辺の環境整備を実施することで、「齋宮跡」への理解と愛着を持って、歴史文化に対する意識の向上を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	史跡公園(社の森)整備事業	散策道を整備(276m)	あり	R2,7
2	史跡公園(東加座広場)整備事業	118㎡の公園整備、園路180m整備。	あり	R4～6
3	齋宮駅前周辺広場・散策道整備事業	既存建物・駅舎外壁修景、既存説明板(2基)撤去・改修。	あり	R3、R4
4	竹神社前ポケットパーク整備事業	東屋1棟を含む公園整備(162㎡)。	あり	R4～6
5	下園・御館道ポケットパーク整備事業	散策道兼ポケットパーク整備(972㎡)	あり	R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

史跡齋宮跡の整備は、地域住民との関わりを重視し、文化財と生活環境の調和が重要であるため、文化庁との協議に基づく発掘調査の実施のほか、住民への定期的な説明会等を実施しながら公園整備事業を進捗した。発掘調査に伴う現地説明会も実施したことで、齋宮跡への愛着も育むことができた。

公園整備と合わせて、地域の排水路を改修したことで、局地的な大雨による道路冠水が解消し、観光客及び地域住民の安全も確保できるようになった。

公園整備を行ったことにより、地元住民の「齋宮」への愛着心が高まり、ポケットパークに花を設置するなどの植栽活動や施設管理への協力やイベントにも参画をしている。

また、齋宮に愛着を持つ地域の民間事業者の協力もあり、齋宮駅前周辺広場の修景整備が実施された。



社の森広場散策道 R3.3



竹神社前ポケットパークと住民による花の設置 R8.3



齋宮駅前周辺広場(修景)R4.3

④ 自己評価

発掘調査の現地説明会や、住民説明会を継続して実施したことにより、齋宮跡への愛着が深まり、地域での活動につながっていると評価できる。

今後、一部の事業見直しを行いつつ、継続した歴史的資源の保存と活用を継続させていく必要がある。

⑤ 今後の対応

継続した発掘調査に基づき、齋宮跡の理解を促すような整備が必要と感じており、関係団体と共同して事業を実施する必要がある。

齋宮駅前周辺広場・散策道整備事業は一定の事業を実施することができたため、前期で終了し、後期では、齋宮跡についての理解を促す新規事業を実施していく。

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅱ 史跡齋宮跡を核に歴史的資源を活かした観光に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

齋宮は古代中世において、重要な機関であったが、現在ではあまり知られていない。また、町内には、宿泊・飲食施設が少ないため、観光客の滞在時間も短くなっている。また、史跡が広大であり、かつ関連する日本遺産が点在しているため、誘導方法、移動手段の検討が課題である。

そのため、日本遺産など魅力ある歴史的資源の情報を発信し、観光客の集客向上を図りつつ、安全で快適に散策するための広場や散策道、案内サイン等を整備し、周遊ルートの設定と、乗り物等で快適に回遊できる手段を検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	史跡公園(祓戸広場)整備事業	多目的広場(3,019㎡)	あり	R2
2	史跡公園(南裏広場)整備事業	散策道(138m)、広場(1,834㎡)	あり	R2、R3
3	案内標識・サイン整備事業	案内サイン等20基	あり	R2～R7
4	歴史的文化遺産に関する総合的な情報発信事業	地域ラジオ局開設、イベント等PRブース	あり	R2～R7
5	体験プログラムなど魅力のある歴史的文化遺産の活用の構築	各体験プログラム開発	あり	R2～R7

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

H31年に作成した『史跡活用調査報告書』に基づき、案内サイン等の設置計画を立て、回遊性を高めるための案内板等を設置した。情報発信については、町のHP、SNSのほか、地域に新たに開設された民間のネットラジオ局により、多角的な情報発信が実施された。また、歴まち協議会や地域でも散策道に関する意見を聴取し、計画に反映した。

ソフト事業としての各体験プログラム開発では、地域の民間事業者を主体として歴史的資源を活かした魅力的なツアー、体験プログラムを期間をとおして実施した。

周遊ルートの設定と快適な周遊のための乗り物については、町と地域DMOが協力し、レンタサイクルを継続して実施している。また、試験的な電動カート、自動運転バスの実施を、地域DMOが国補助金を活用して実施した。



案内サインと散策道 R3.3



歴史的資源を活かしたツアー R4.10

④ 自己評価

活用調査での成果に、協議会、地域での意見聴取も取り入れて事業を実施することができた。

ソフト事業は、地域の民間事業者やDMOと協力して官民連携事業として実施できたことも評価できる。

今後は、さらに官民連携を進める必要がある。



電動カート R4.12

⑤ 今後の対応

整備した散策道を活用した、いわゆる2次交通の整備が必要で、後期計画では、駅や駐車場などの交通結節点を中心に、電動カート等の発着所などの基盤整備を検討していく。

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅲ 歴史的建造物や景観に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的建造物のほとんどは民有住宅であり、後継者不足等から空家となり、取り壊しとなることもあるため、所有者の理解と協力を得た上で、保存と活用の方策、保存のための指定や登録を検討し、必要があれば修理・修復等を行う。

また、道路などの景観にも配慮し、行政、企業、地域住民の協力を得ながら、美装化に努める必要がある。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的建造物等の活用整備事業	3棟の建物を改修し、活用	あり	R3～R7
2	歴史的文化遺産景観形成事業	道路の美装化、空き店舗解体撤去	あり	R3～R7
3	地域住民による建造物を活かした取り組み	改修古民家、店舗を活かした活動	なし	R3～R7
4				
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

民有の歴史的建造物は、数を減らしつつあるため、第1期計画時に歴史的建造物の基礎調査を実施していたが、活用の目的が立っていなかった。近年、調査成果を活かす形で、所有者や地域住民、地域DMOが改修し、活用される例が増加している。

地域DMOによって、期間中に3棟の古民家が店舗、宿泊施設として改修された。営業はR8年度からであるものの、所有者の理解のもと、事業を推進する予定である。

所有者によって改修され、店舗兼地域博物館として改修された住宅は、『澄野家住宅主屋』として国登録文化財となり、保存・活用が実施されている。

また、景観については、地域DMOと地元企業が共同して、伊勢街道沿いの空き店舗が解体撤去されたことで、景観の改善につながっている。伊勢街道については、県道として管理されており、改修された古民家飲食店の前面道路は、カラー舗装の改修が実施された。



澄野家住宅の展示 R7.5



伊勢街道とカラー舗装 R6.3

④ 自己評価

人口減少社会における建物の減少は避けようがないが、理解ある所有者、関係者により、保存と活用が実施され、文化財の登録など、官民合わせての動向が評価できる。

また、景観の改善も官民が協力して実施することができ、景観の向上につながっていることが評価できる。



国登録文化財登録証交付式 R5.9

⑤ 今後の対応

歴史的建造物をととして、歴史文化への関心が増加し、景観の向上にもつながるように、今後も官民が協力して事業を推進していく。

改修された歴史的建造物は、改めて文化財としての価値を定義づけることで、登録文化財とするなど、保存を図りつつ、活用していく。

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
方針	IV 地域の伝統文化や行事等の継承に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

町内の伝統行事は、少子高齢化の進展、若者の流出による担い手不足等の課題を抱えているため、伝統行事への継承に取り組む各種団体への支援などにより人材育成を図る必要がある。

そのために、各種団体への支援を積極的に実施しつつ、伝統文化の聞き取り調査や、古文書等の保存修理、伝統文化や文化財に関する啓発や発表の場を設ける。また、次世代を担う人材育成として、学校教育の場において、出前授業や現地見学等を実施し、郷土愛の醸成を図ることが必要である。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的文化観光講座事業	町内外での講座を実施	あり	R3～R7
2	ガイドボランティア育成事業	各講座、研修会を実施	あり	R3～R7
3	歴史的文化遺産活用調査	回遊性、事業効果等の分析・調査	あり	R7
4	文化財の指定・登録	町指定6件、国登録2件が増加	あり	R3～R7
5	指定文化財の修復、伝統文化の継承への支援	用具・彫刻修理、伝統文化支援(全期)	あり	R3～R7

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

代表的な歴史的風致である、「斎王まつり、大淀祇園まつり」については、継続した支援を実施することで、人材育成と継承を促すことができた。その他の伝統文化についても継続した調査を実施し、用具等の修繕や新調を国の補助を得て実施した。また、新たに民俗文化財、彫刻、歴史資料、史跡、建造物を指定・登録文化財とすることができた。また、町内関係施設には伝統文化の啓発ブースを設けたほか、地域の郷土愛醸成と、町内外への情報発信のために文化遺産講座を実施した。

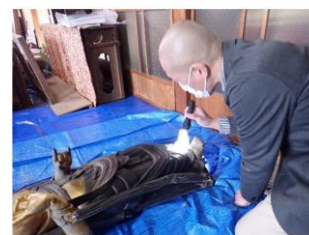
また、指定文化財である彫刻の経年的な劣化が進んでいたため、文化財保護審議会の詳細調査を実施したうえで、所有者に補助金を交付し、修理を実施した。修理後には、修繕報告会を開催し、改めて文化財の重要性を解説することで、更なる郷土愛が醸成された。



文化遺産講座 R5.1



伝統文化出前授業 R6.1



指定文化財修理のための詳細調査 R5.12


④ 自己評価

継承に関わる取組は、なにより継続した取組が重要であるため、計画だてて継続実施できていることが評価できる。

また、指定や修理の際に地域の歴史的資源を、改めて地域に紹介することで、郷土愛の醸成につながるため、これも継続した取組となるようにしたい。

⑤ 今後の対応

今後も継続して取組を進め、文化財の保存を継続しつつ、より多くの人に知っていただくため、情報発信を強化することで、観光的な取組にもつながるよう、事業を実施・検討していく。

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年																
効果	i 郷土教育の充実と地域資源の発見による地域のホスピタリティ向上																		
<p>① 効果の概要</p> <p>町内の全小中学校、全学年でより充実した郷土教育を実施した。</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>明和町教育大綱</td> <td>あり</td> <td>R5～R8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>明和町文化財保存活用地域計画</td> <td>あり</td> <td>R3～R12</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>『明和町教育大綱』、『明和町文化財保存活用地域計画』に基づき、郷土教育のさらなる充実を図った。新たな教科である「めいわ楽習」の副読本等を教育委員会や学校教員と共同で作成し、授業に活用した。また、児童による学校での発表会の開催や歴史的資源を紹介するカードの作成を通じて、地域資源の発見とホスピタリティの向上にもつながった。</p>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	明和町教育大綱	あり	R5～R8	2	明和町文化財保存活用地域計画	あり	R3～R12				
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	明和町教育大綱	あり	R5～R8																
2	明和町文化財保存活用地域計画	あり	R3～R12																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>これまで郷土教育は各学校で実施されていたが、必修項目となっておらず、学校によって偏りが出ている状態であった。</p> <p>毎年確実に、伝統文化や文化財に関する学習をする体制を整え、次世代への発信と郷土愛の醸成のため、『明和町教育大綱』、『明和町文化財保存活用地域計画』に基づき、郷土教育のさらなる充実を図った。特に『明和町教育大綱』の基本方針に、「史跡及び日本遺産を活用したまちづくりの推進と地域の伝統文化を継承していく郷土愛に満ちた人材の育成」を掲げた。</p> <p>その重点政策として「小中学生に対する郷土学習の推進」を設定し、新たな教科として、「めいわ楽習」をスタートさせ、副読本として「めいノート」と補助教材を学校教員とともに作成し、ガイドボランティアや伝統文化関係者が出前授業を実施するなど、互いに刺激となり、更なる郷土愛醸成が期待される成果となった。</p> <p>また、中学校では、「ふるさと創造学習」として、発表会の開催と冊子の作成、小学校では、歴史的資源を紹介する「めいカード」の作成を行い、地域資源の発見とホスピタリティの向上にもつながった。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>継承に関わる取組は、なにより継続した取組が重要であるため、計画だてて継続実施できていることが評価できる。</p> <p>また、学校教育と伝統文化関係者との橋渡しができたことは大きな成果であり、これも継続した取組となるようにしたい。</p>		 <p>副読本「めいノート」 R6.3</p>  <p>ふるさと創造学習 R8.3</p>  <p>文化財紹介「めいカード」 R8.3</p>																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も継続して取組を進め、文化財の保存を継続しつつ、より多くの人に知っていただくため、情報発信を強化することで、観光的な取組にもつながるよう、事業を実施・検討していく。</p>																			

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	A 歴史的建造物等の活用整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>所有者のいない空家や老朽化した住宅の一部は、歴史的風致形成建造物候補としているものの、所有者によっては解体の恐れもあり、滅失の危機にさらされていた。第1期計画時に歴史的建造物の基礎調査は実施していたが、活用には至っていなかった。</p> <p>所有者、地域DMO、民間事業者などが、協力して店舗等に改修することで、まちの景観を保つことができた。また、店舗の一部は、町による建造物調査の結果、良好な歴史的建造物であることが判明したため、国登録文化財として新たに登録された。</p> <p>国登録文化財の、『澄野家住宅主屋』は、通常の店舗営業のほか、「いつきのみや 音と生活の博物館 霽標」として、三重県の「まちかど博物館」にも登録されており、地域の博物館として展示や催事を実施している。</p> <p>R8年3月には、地域DMOにより、歴史的建造物の2棟が宿泊施設と店舗として改修された。今後の営業や活動に期待がなされており、さらなる歴史的風致の維持と向上につながるものと思われる。</p>		    <p>歴史的建造物の改修前後</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>歴史的建造物の改修の際にはまず、町が文化財としての建物の測量調査を実施して、所有者、関係者に文化財としての価値を伝えている。また、所有者、関係者が建物の改修案をまとめる際には、文化財としての価値を損ねることがないように協議を実施した。</p> <p>地域住民や所有者の理解もあり、2棟の建造物を調査し、国登録文化財に登録することができ、保存への枠組みを示すことができたことは評価できる。</p>			
外部有識者名	中野 敦夫（合同会社アドバンスカンパニー代表、元齋宮跡・文化観光課長）		
外部評価実施日	令和8年4月15日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>齋宮跡、伊勢街道の区域には、これまでの史跡の保存施策や、住民の街並み保存の意識から、マンションなどの高層建物が建設されていないのが良い点となっている。</p> <p>建物の文化財としての指定、登録については、所有者の意思もあり、難しいと考えていたが、国登録文化財として2棟登録され、建物の価値を改めて評価できたことは良い点である。</p> <p>今後、さらに歴史的建造物の調査を進め、指定・登録を増やす努力を続け、行政としては、地区全体での景観を維持・改善する取組を検討してほしい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>所有者等と緊密な連絡を取り、今後も歴史的建造物の調査を継続していく。また文化財としての価値を指定や登録によって確かなものに位置づけ、その価値を発信することで、観光的な取組にもつなげていく。</p> <p>また、地区全体の景観については、史跡公園の景観とも合致するよう取組を進めていく。</p>			

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	B 史跡公園整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>史跡齋宮跡内の公園整備として、広場、散策道、案内板等の工事を、住民への説明会を実施しながら整備した。史跡内であることから、工事の実施前には、文化庁等の協議と、発掘調査を実施し、地下の遺構を壊さないように施工した。調査終了時には、発掘調査の現地説明会を開催し、多くの地域住民が参加した。公園整備後には、発掘調査等で判明した成果を説明看板に記載した。</p> <p>発掘調査に伴う現地説明会や設置看板により、齋宮跡への愛着も育むことができた。町民を対象にしたアンケート調査では、町内の歴史等を誇りに思う割合が、R2の77.5%から、R7では、85.4%まで上昇した。</p> <p>また、公園整備と合わせて、排水路の改修、散策道の整備、案内看板の整備をしたことで、観光客及び地域住民の安全や利便性も確保できるようになった。</p>		 <p>整備前 R3.3</p>   <p>発掘調査説明会 R5.7</p>   <p>整備後 R7.3</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>史跡齋宮跡は埋蔵文化財であるため、普段はその存在を認識することができず、歴史的魅力が伝えづらい。</p> <p>工事施工前の発掘調査ではあるが、発掘調査の成果や魅力を伝える説明会を開催し、説明看板を整備した。また、施工時には立会をして遺跡を保存することができた。</p> <p>これらの取り組みにより、地域住民の歴史文化への愛着が増加し、アンケート調査の結果、割合が上昇しており、評価できる。</p>			
外部有識者名	中野 敦夫（合同会社アドバンスカンパニー代表、元齋宮跡・文化観光課長）		
外部評価実施日	令和8年4月15日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>地域住民が身近に歴史文化を感じることで説明板や公園が増えてきているおかげもあって、住民の歴史文化を大切に思う気持ちは、過去と比べて良くなってきていると感じており、評価できる。</p> <p>一方で、史跡公園の東部はあまり整備が実施されておらず、齋宮跡を理解できるような工夫ある整備が必要である。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>齋宮跡は広大であるため、未だ本格的な整備が実施されていない部分もある。今後、発掘調査に基づいた史跡整備が必要と感じており、三重県はじめ、関係団体と協議を進め、今後の計画に反映させていく。</p>			

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	1 齋宮の顕彰と保存に関する歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 史跡齋宮跡の保存と地域住民との調和に関する方針 II 史跡齋宮跡を核に歴史的資源を活かした観光に関する方針 III 歴史的建造物や景観に関する方針 IV 地域の伝統文化や行事等の継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

古代から続いた齋王制度が廃絶した後、齋宮の旧跡地である「齋王の森」や「野々宮（竹神社）」は、神聖な場所として現在に至るまで地元住民に守られ、明治以降の齋宮復興への運動により、史跡指定に繋がった。地元住民等は往時の隆盛を誇った齋宮の様子を目にすることはできない中で、その姿を皆が思い描きながら、「齋王の森」や「野々宮」を守り続け、ありし日の「齋宮」を思い起こして、市街地に眠る歴史を大切に伝え残すという思いを受け継ぎ、現在も齋王まつりをはじめとした顕彰を継続している。

② 維持向上の経緯と成果

● 史跡公園整備事業

史跡齋宮跡の竹神社前ポケットパークをはじめ、散策道、案内看板の整備が完了した。また、既存公園や歴史的資源をつなぐ2次交通を導入することで、各拠点間の移動利便性が向上し、地区内の歴史的風致の向上に寄与した。

史跡齋宮跡を巡るグリーンスローモビリティ「牛車（もうくる）」が本格稼働！【プレスリリース】



2次交通（電動カート） R7.5

● 歴史的建造物の活用

江戸時代の参宮時や齋宮顕彰運動時の歴史的建造物が、民間所有者や事業者によって整備され、活用が実施された。関連の建造物は、国登録文化財を目指して調査を実施するなど、官民連携して、建造物の保存・活用を実施し、地区内の魅力向上にもつながった。



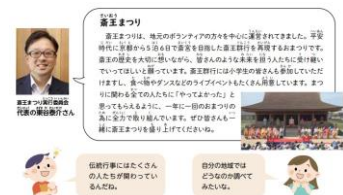
体験プログラム R7.2

● 魅力のある歴史的文化遺産の活用

第1期計画で整備した各施設を活かして、民間事業者が体験プログラムを実施し、販売も含め、観光的な活用がなされており、地域の活性化にもつながった。

● 齋宮・齋王の顕彰と学校教育

新たな郷土教育の題材に齋宮の顕彰を取り上げ、次世代を担う児童たちに継承することができた。



郷土学習副読本「めいノート」

③ 自己評価

歴まち1期計画により実施された整備地を、官民が連携して利活用し、体験プログラムや伝統的行事が実施されていることは歴史的風致の維持向上に大きく寄与したと評価できる。

また、郷土教育を学校教育に積極的に取り入れることで、歴史的風致の継承に繋がり、地域全体の意識向上にも繋がった。

④ 今後の対応

齋宮跡の歴史的風致をさらに向上させるためには、齋宮跡を理解できるように促す整備や、2次交通の更なる整備が必要である。

また、今後も関係団体が連携して事業に取り組む体制が必須である。

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	2 民俗行事に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	IV地域の伝統文化や行事等の継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

町内には各地区で寺社を中心とした民俗行事が実施されており、特に歴史的風致としている、大淀の祇園まつり、志貴の精霊相撲・中村の安産祈禱相撲、前野のお頭神事、有爾櫻神社天王踊りは、継続して祭りを実施している。

伝統的な寺社と農山漁村など地域特有の街並みで実施される祭りは、多世代が祭りに関わり、歴史と情熱が一体となった伝統的な祭りの風情を感じさせている。

② 維持向上の経緯と成果

● 民俗文化財の用具修繕・新調

祭りで使用する山車、太鼓などの用具が長年の使用と経年劣化により、使用できない状態となっていたことから、補助金を活用し、用具の修繕を実施し、歴史的風致の維持に寄与した。

● 町指定無形民俗文化財の指定

町内の民俗行事を継続して調査したことで、新たに「上村のシメナワ日待ち」を町指定の文化財とすることができ、関係者や地域住民が歴史文化を捉えなおし、後世に継承していく機会となった。

● 地域児童への継承と啓発

三重県と共同し、児童が民俗行事を調べ、発信する「みえ祭協力隊」事業を実施した。大淀の祇園まつりでは、修復した山車を使用し、関係者の案内のもと、伝統文化を継承する機会となった。また、町内小中学校では、祭り関係者による出前授業や、用具を使用しての、実演、体験が実施され、学習した児童たちによる祭りの啓発活動が実施されるなど、歴史的風致を理解、継承し、向上する取組みとなった。

地域全体への啓発としては、公共施設や商業施設で、祭りの期間に合わせ、特設ブースにて展示をし、啓発を実施した。



山車修理

R5.3



「上村のシメナワ日待ち」 R5.1

③ 自己評価

地域住民が主体である伝統文化の活動を、行政が側面的にサポートすることで、祭り関係者が主体となって事業を実施することができ、伝統文化の継承に寄与できたと評価できる。

特に、子どもたちへ授業などで紹介したことより、新たな啓発につながるなど、双方に良い点となったことも評価できる。



祭り関係者の現地案内 R6.8

④ 今後の対応

各伝統文化に対して、修理や啓発の機会創出などのサポートを実施できたが、人口減少社会においては、危機的状況が続くと思われるため、今後も継続的な支援の取組を実施していく必要がある。

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 庁内組織の体制・変化</p> <p>第1期計画の策定時から一貫して、斎宮跡・文化観光課が主管課として、計画を進捗している。</p> <p>本来なら専門の部局を設置することが望ましいが、町の規模では困難であるため、「明和町歴史的風致維持向上計画策定庁内会議」の要綱に基づき、副町長以下、まちづくり戦略課、建設課、斎宮跡・文化観光課で必要に応じて歴史まちづくりの進捗を図っている。また、計画の変更など内容に応じて、産業振興課、学校教育課とも協議を実施している。ほか、庁舎内での調整は、月2回行われている定例課長会で必要に応じて歴史的風致維持向上計画の推進について協議している。</p> <p>令和2年度に機構改革を実施し、町総合計画も改定となったが、今まで同様、町の重要施策として位置付けており、主管課は引き続き斎宮跡・文化観光課が担っている。機構改革にあたって、関係性の深い課は、グループ単位での組織体制となり、斎宮跡・文化観光課は、都市計画を担当するまちづくり戦略課と戦略グループに位置づけられている。</p> <p>また、歴史的資源を学校教育に浸透させるため、R2年度からは、教育委員会と学校教員と月数回の協議を実施し、郷土教育を推進している。</p>		<div data-bbox="1038 264 1362 622" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>令和3年度～7年度</p> <p>まちづくり戦略課 まち開発係 1人</p> <p>建設課 管理用地係 1人 土木係 1人</p> <p>斎宮跡・文化観光課 文化財係 2人 観光係 1人</p> </div> <p>歴史まちづくりの体制</p> <div data-bbox="1018 775 1385 1048" style="text-align: center;">  </div> <p>郷土教育会議の様子</p>	
<p>② 庁内の意見・評価</p> <p>・『明和町文化財保存活用地域計画』に基づき、町内の歴史的資源を活かして、国・県の支援を得ながら活性化に向けて取り組み、ハード整備、ソフト整備ともに、充実しつつある。特に民間事業者による歴史的資源の保存・活用が進んだことが良い点であり、H24年に認定を受けた第1期計画によって、歴史的資源を活かした取り組みを続けてきたことが契機となっており、地域の活性化につながっている。</p> <p>・R8年開校の新小学校建設に合わせ、R2年から教育関係者と準備をし、郷土教育を充実させてきたことは、地域とのつながりが薄れつつある中で、学校としても良い成果であるといえる。児童への郷土教育は、シビックプライドの醸成となり、中学までしかない当町にとって、将来世代のUターンにつながり、更なる地域活性化となる。</p> <p>・さまざまな事業を行い、実績としては観光客の増加など成果は出ているものの、地域は高齢化し、空家は増加してきている。事業としてのゴールが見えず、財政が豊かでない当町でいつまで続けるのか。</p>			

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 住民意見 ◆住民アンケート、地元協議会等における意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古民家や空家の整備により、地域からなくなっていた飲食店ができ、地域が活性化した。 ・竹神社に観光客が訪れるようになり、これまでなかった人通りが生まれ、地域が活性化した。 ・歴史的な公園でありながら、子どもを安心して遊ばせることができる芝生等も整備してもらい、よく利用している。 ・公園整備と一体で、排水路の整備を実施してもらった結果、冠水がなくなり、安心して暮らせるようになった。 ・ハード整備の実施は、重点区域の中でも史跡齋宮跡内がほとんどで、他地区は整備が進んでいない。特に歴史的風致ともなっている他の民俗文化財はほとんど補助金などが無い。 ・整備されて公園となるのは良いが、あまり観光客が来ると、静かな生活ができなくなるので、やめてほしい。 ・史跡の保存なのはわかるが、公有化したままの未整備地が多い。土地の有効活用として、花や野菜を植えるのはどうか。 ・公園内に飲食店、子どもが遊ぶ場所をもっと増やしてほしい。 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>令和8年5月21日に開催した法定協議会では、中間評価（協議会のコメント部分を除く）を提出し、事業の総括について議論していただいた。その結果、以下のような意見をいただいている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①歴史的建造物は、官民連携して実施されており、良い事例である。 ②地区全体での景観を維持・改善するための条例などの整備が必要である。 ③これまで散策道などを整備し、評価できる。ただ、遺跡が広大なため、わかりにくいのが課題。植栽事業も進めているが、集客が少ない。 ④植栽も良いが、来訪者には齋宮跡の本来の歴史を知ってもらいたい。 ⑤住民活動が活発になってきたとのことで、評価できる。継続してもらいたい。 ⑥学校教育との連携は町内での統一した動きとなっており、評価できる。 ⑦歴史的建造物の抽出が重要である。また、関連の絵図類も現地とつなげて見られるようにしてほしい。 ⑧史跡の案内看板など定期的な修繕が必要である。 <p>ほか、令和3年～令和7年までの法定協議会での主な意見は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑨公園の近くに太陽光パネルが多くなってきており、景観上懸念。 ⑩来訪者、地元住民両方にとっての価値向上を目的に事業、計画を運営してもらいたい。 ⑪今後住民参加が益々重要になってくる。伊勢街道の古民家活用をぜひ実現してもらいたい。 			

市町村名	明和町	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 全体の課題</p> <p>1. 歴史的風致の維持向上 当町には、齋宮の顕彰と保存に関する歴史的風致、民俗行事に見る歴史的風致の2つがあり、歴史性の理解促進や、周遊促進、伝統文化の継承が課題となっている。また、地区全体の景観を維持・管理するための広域的な取組が課題となっている。</p> <p>2. 他の計画・施策との連携方策 主に、『明和町教育大綱』、『明和町文化財保存活用地域計画』、『史跡齋宮跡保存活用計画』に基づいて歴まち計画と連携してきたが、今後の連携継続が課題であり、三重県による新たな計画策定案もあるため、今後の連携が課題である。</p> <p>3. 歴史的建造物の登録等管理方針 人口減少社会における建物の減少は進行しており、歴史的建造物所有者との連絡調整が課題である。解体を免れた後の、保存や活用の方策を確かなものに位置づけていく必要がある。また、歴史的建造物周辺の景観改善も検討していく必要がある。</p> <p>4. 個別の事業・施策の位置づけ 前半計画を総括・分析し、住民、法定協議会、民間事業者、庁内の意見を聴取・集約し、事業の再検討や、集約、今後の新規事業を、各団体と共同で検討していく必要がある。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1. 歴史的風致の維持向上 当町の歴史的風致をさらに維持・向上させるためには、歴史性の理解を促す整備や、2次交通の整備が必要であると考え。また、関係団体の連携や伝統文化への支援・連携にも積極的に取り組む体制が必須である。また、地区全体の景観についても維持・改善するための取組を進める。合わせて、これらの取組みが観光的な活用にもつながるよう、情報発信も強化していく。</p> <p>2. 他の計画・施策との連携方策 『明和町教育大綱』、『明和町文化財保存活用地域計画』、『史跡齋宮跡保存活用計画』に基づき、継続した取組を続けるとともに、新たに策定された『明和町立地適正化計画』や、三重県が策定予定である『史跡齋宮跡整備基本計画』や、民間団体の施策とも連携して、取組を進めていく。</p> <p>3. 歴史的建造物の登録等管理方針 所有者等と緊密な連絡を取り、今後も歴史的建造物の保存・調査・活用の事業を継続していく。文化財としての価値を指定や登録によって確かなものに位置づけ、歴史的建造物をとおして、歴史文化への関心が増加し、景観の向上にもつながるように、今後も官民が協力して事業を推進していく。また、歴史的建造物を活用し、その価値を発信することで、観光的な取組にもつなげていく。</p> <p>4. 個別の事業・施策の位置づけ これまで実施してきた事業を分析し、散策道事業や一部の事業を集約し、重点区域内外での新規事業を実施していく。古代道路の復元や【仮称】史跡農園の整備を、各団体と共同して実施することで、歴史性の理解を促す整備としたい。</p>			